

皆さんは一月に平均何冊の本を読みますか？本を読むのが好きな方でも、勉強、バイトと中々ゆっくりと読書する時間がないと感じているのではないのでしょうか？本を読むということはやはり意識して時間をとくらなければ出来ませんよね。そこで積極的に本を読む機会を与える為に、授業間の中休みを利用してはいかがでしょうか。時間が決まっていることで、集中して本を読み、短編小説なら1つ2つ読める程よい長さだと思います。その日の気分に合わせて好きな本を手に取り、ページを繰ってみて下さい。短い時間の内にも、きっと多くの発見と知識が得られるでしょう。

ところで皆さんは図書館の本の配置をご存知でしょうか？本はそのジャンルごとにきちんと分類され、配架されています。大体はパソコンで請求番号を調べて、希望の図書を探されますよね。しかし、書架にはまだまだ未知の世界がまっているのです。見落としがちな低い棚には、美しい装丁や挿絵の入った日本古典の本や、美術の大型本が並び、それらは図書館でしか味わうことのできない世界を私たちに見せてくれます。是非図書館の中をもっと探検してみてください。普段自習室として澄ましている図書館が、一変してあなたを誘う魅惑的な存在になるかもしれません。

ふなせ まりえ (英米語学科2年次生)

本誌の表紙に使われた貴重書

Principles of Political Economy 2 vols. London, 1848

ミル 『経済学原理』

MILL, John Stuart



ジョン・スチュアート・ミル(1806-1873)はイギリスの経済学者・哲学者。経済学者ジェームズ・ミルの長男として、有名な天才教育を受け、3歳にしてギリシャ語を学び始めたと言われる。8歳の頃にはラテン語、ユークリッド幾何学、代数学を学び始め、12歳の時にはアリストテレスの論文を原語で読み、13歳の頃すでに父からアダム・スミスやリカードの古典経済学を教授されていた。ケンブリッジ大学から研究の場を提供されたのだが、それを断って17歳で東インド会社に入社し、1858年会社が解散するまで在職した。晩年には下院議員として婦人参政権のためにも活躍した。

彼はリカード後の古典派経済学の代表的な経済学者であり、1848年にロンドンで長大な著書『経済学原理』を出版した。この書物は、マーシャルの『経済学原理』が1890年に出版されるまで、古典派経済学の代表的な教科書として非常な好評を博したものであった。本学所蔵のものは、その初版本であり、生産・分配・交換及び社会の進歩が生産及び分配に与える影響と題されている。全4篇のうち特に第2篇の分配論においては、歴史的与件の変化による同理論の動態化が試みられている。

ミルは自由競争と私有財産制の双方がその社会にもたらす長所を認めつつも、ロバート・オーエンなどのユートピア社会主義に関心を示しており、その当時行き詰まりを呈し始めていた自由放任政策の打開策として、政府の再分配機能による漸進的社会改革を考えていた。近年はミルに対する再評価の動きも見られる。

原寸 22.3×13.9cm

『洋書百選』(1972年本学図書館刊行)より抜萃、加筆